

令和6年2月15日

久留米市議会議長 吉富 巧 様

議会広報委員長 松岡 保治

議員派遣報告書

本委員会は、会議規則第160条の規定に基づく派遣について、次のとおり実施しましたので、報告書を提出します。

記

1. 日程 : 令和6年1月15日(月)～16日(火)
2. 派遣先 : 大阪府八尾市
3. 視察内容 : 議会広報の取り組みについて
4. 派遣議員 : 委員長 松岡 保治
委員長職務代理者 堺 太一郎
委員 古賀 としかず、吉武 憲治、生野 薫、
石田 眞一郎
5. 報告書 : 視察報告書のとおり
6. その他 : 随行 新村利恵

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	令和6年1月15日(月) 午後2時30分～午後4時30分
視察先・概要	大阪府八尾市 人口：約26万1千人 面積：41.72k㎡ 特記事項：中核市
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	中核市議会報コンクールで2度の受賞歴がある市議会だよりや、SNS・ポスターの活用、高校生とコラボした様々な取り組みについて調査し、今後の議会広報の充実に向けた取り組みの参考とするため。
調査概要	<p>八尾市議会において、田中議長の挨拶に引き続き、議事政策課 松村係長、菱井主査から議会広報の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p><視察の様子：八尾市></p>

調査内容

八尾市議会だよりは、中核市議会報コンクールで、令和元年に優秀賞、令和 5 年に審査員特別賞を受賞している。

紙面の特徴として、写真や画像を多く配置しながら、余白を意識的に取り入れることで視覚的に読みやすく、また、市議会に興味が増くようなコラムなど、読みたくなるような紙面づくりが行われている。

編集の基本方針は「“伝える紙面づくり”から“伝わる紙面づくり”へ」であり、分かりやすい紙面づくりを目指している。

また、議会に対する興味・関心を持ってもらうための入口として、議会の他の広報媒体につなぐとともに、会議録検索や映像配信等の媒体を活用してもらえるような紙面づくりが行われている。

さらに、議会に興味・関心を持ってもらえる記事、議会で議決したことが身近な暮らしにつながっていることを伝えるような記事、議会に関する豆知識が得られる記事、用語の説明・注釈等のある親切な記事づくり等、議会からの意欲的な情報発信が感じられる紙面づくりが行われている。

「市議会×高校生プロジェクト」では、高校生とコラボした様々な取り組みが行われており、市議会だよりの表紙・題字を高校の部活の作品や活動写真を表紙として採用するなどされている。

また、表紙に登場した学生のインタビューを編集委員が行い、市議会を身近に感じてもらえるように交流を図り、裏表紙に記事を掲載されている。

「Meet & Greet with 八尾市議会」は、平成 30 年度から主権者教育の一環として、学生に議会への関心を持ってもらい、議会を身近に感じてもらうこと、学生の意見を議会だよりに反映させてよりよい紙面としていくことを目的に実施されている。

SNS の活用については、八尾市議会では X（旧ツイッター）と Facebook に取り組まれている。これにより議会の見える化が促進され、議会の情報が届きにくかった若者などへ議会の情報を届け、より多くの市民へ議会の活動を知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的とされている。フォロワーを増やすためには、議員のリツイートやシェアが効果的であり、面白い内容のものや人物が出ている投稿に「いいね！」が多いということであった。

「がんばるあなたを応援プロジェクト～YELL～」では、コロナ禍の中でも頑張っている市民に焦点を当て、取材が十分にできない状況下にあっても、市民と議会が交流できる機会として、「紙面に市民を登場させる企画」、「公募で市民の写真を掲載する企画」が行われた。

	<p>また、平成 30 年から「議会開会ポスター」を作成し、庁舎内や駅などに掲示されている。これらのポスターは、職員で作成されているということであったが、斬新で面白く、目を引くデザインであり、市議会に感心を持ってもらい、より理解を深めるきっかけとなっているということであった。</p>
<p>主な 質疑応答</p>	<p>問：中核市の議会報コンクールで、審査員から、久留米市議会だよりは「議員の関わりが少ない」とのコメントがあった。八尾市議会では、議員は紙面の作成にどこまで関わっているのか。</p> <p>答：紙面のデザインは、事務局職員が行っている。 「市議会×高校生プロジェクト」には、議会だより編集委員会（議員）が関わっている。編集委員会の委員は、比較的若く積極的。</p> <p>問：「市議会×高校生プロジェクト」では、高校生から話をうまく引き出されていた。どのようにしたら、あのよう積極的に話してもらえるのか。</p> <p>答：以前に行っていた議場での企画は形式的で、決まった原稿を読むだけだったとの感想であったため、フランクな雰囲気で行うことを心掛けた。会場では、まじめな動画と、くだけた動画を 2 本流した。参加者は若い議員が多く、高校生にとっても、話しやすい雰囲気になったと思う。</p> <p>問：議会報告会を行いたいという声は出ているか。</p> <p>答：具体的には出していない。SNS が普及するなど、情報発信の仕方は変わってきており、議会報告会のように、集まる必要はなくなってきているのではないか。</p> <p>問：職員の負担を減らすために、業務委託をする考えはあるか。</p> <p>答：委託の考えはない。議会だより作成に関して、時間外勤務は、ほとんど行っていない。委託することで、校正の手間がかかるなどデメリットがあると聞いている。</p>



<集合写真：八尾市議会議場にて>

その他
(意見・感想)

八尾市議会では、市議会だよりや SNS などに高校生とのプロジェクト企画を絡ませ、議会広報を体系的に展開されていた。

本市議会では、市議会だよりの紙面やホームページ、SNS の充実が課題であり、それらを見直すにあたり、参考にしていきたい。

また、若年層へのアプローチとして、「市議会×高校生プロジェクト」、「Meet & Greet with 八尾市議会」は大変参考になった。本市でも、特に若年層の投票率が低迷していることから、若い世代が政治に感心を持ってもらうきっかけづくりとなるような取り組みを行い、情報発信のさらなる充実に向けて、これらの手法を検討していきたい。